

5月14日に開催した「干潟の観察会」は、いつも文京区での自然観察会に協力していただいている「日本自然保護協会自然観察指導員 東京連絡会 (NACOT)」が開催する観察会に参加するという形態をとりました。下記は、NACOTの機関紙「SIGN POST」に掲載された実施報告です。

## 干潟を守る日 2006・自然観察会 『干潟の生き物たち』

開催日：平成18年5月14日(日) 10時～12時30分

場 所：多摩川河口干潟

参加者：106名(内 小中学生49名)

スタッフ： 自然観察指導員：14名 NPO・学生スタッフ：3名

NACOTでは昨年に引き続き、干潟・湿地保護全国キャンペーン「干潟を守る日」の参加イベントとして、5月14日(日)に多摩川河口干潟で自然観察会を行いました。今回は口コミやホームページなどを通じての申し込みは少なかったのですが、環境ネットワーク・文京の「みんな集まれ!!こども広場」から約100名の参加がありました。



観察会は9グループに分かれ、土手の上から徐々に近づいていって、それから干潟の中に入って見る、という順序で行いました。干潟とヨシ原の広がる多摩川河口の景観、水際を歩きながらエサを探すハマシギの群れ、白いハンカチを思わせるコアジサシのダイビング、干潟に近づくとつれて潮のにおいも強くなってきます…。

そして干潟の表面に見える無数の“つぶつぶ”がすべてカニで、1匹1匹が動いていること

に気付いたときの感動は文章では表せません。干潟の中でも土手寄りと水際とで見られるカニの種類が違いますが、特に人気があったのはやわらかい泥干潟にいるヤマトオサガニ。人が近づくとサッと穴の中に隠れてしまいますが、その場にしゃがんでじっとしていると、まず両眼を潜望鏡のように立てて様子を窺って、それから外へ出てくるというおもしろさに、みんな足が埋もれて抜けなくなるのも気にせず、夢中で観察していました。

羽田空港の神奈川口構想によって、この場所に連絡橋が造られようとしています。それが自然にどの程度影響を与えるのかはわかりません。しかし、今回の観察会を通して多くの人が多摩川河口干潟の自然を体感し、「干潟っていいな!」と感じたこと。わたしたちはこの思いを大切に、次なる行動をおこしていくべきではないでしょうか。

(上田大志)

